



方針と体制

マネジメント方針

スポーツには、心身の健康の維持とともに、国や世代を超えたコミュニケーションを生み出す力、人や地域の可能性を引き出す大きな力があります。ミズノは、経営理念「より良いスポーツ品とスポーツの振興を通じて社会に貢献する」に基づき、スポーツの振興を通じて、より多くの人々にスポーツへのアクセスを提供し、一人ひとりが輝けるより豊かでサステナブルな社会の実現に貢献していきます。

当社が取り組んできた「スポーツの振興」とは、一人でも多くの人々にスポーツの楽しさを届け、「フェアプレー」「フレンドシップ」「ファイティング・スピリット」というスポーツの宿す精神を体験してもらうこと、また、社会が直面する課題に対し、スポーツの持つ可能性を最大限に生かしたソリューションを関係機関と協力して提供することと考えています。

また、2020年に策定した「SDGs推進指針」、および「ミズノ倫理規範」の「1. 社会への貢献」に基づき、スポーツの定義を競技シーンだけでなく、日常生活シーンにおける身体活動にも拡大し、スポーツの力で社会課題を解決する新たなSDGs貢献型ビジネスの創出も目指していきます。

[「SDGs推進指針」「ミズノ倫理規範」について詳しくはこちらをご参照ください](#)

マネジメント体制

ミズノは、人事総務担当の執行役員が委員長を務める「サステナビリティ推進委員会（社内名：MIZUNO CREW 21本委員会）」を設置しています。グローバルで取り組む主要なサステナビリティ活動の方向性は本委員会で議論され、その活動内容は関係者に共有されています。

[サステナビリティ推進委員会（社内名：MIZUNO CREW 21本委員会）](#)

また、常務執行役員がリーダーを務める「プロダクト横断企画開発委員会」では、研究開発部門をはじめ、アパレル、フットウエア、イクイップメントの各プロダクト部門の代表者が集まり、定期的な会合を実施し、R&Dに関する展望、今後の方針、具体的な計画づくりなど、持続可能な未来の実現に向けて活動しています。

[プロダクト横断企画開発委員会](#)



重要課題

スポーツを通じた心身の健康

基本的な考え方

私たちを取り巻く生活環境は、日々著しく変化しています。情報化社会の進展やさまざまな作業の自動化により利便性が向上するとともに、労働形態の変化なども加わり便利で快適な生活が実現しました。一方、運動不足や人と人との交流の減少といった課題も生まれ、社会の健全な発展に大きな影響を及ぼすことが懸念されています。

ミズノは、より多くの人々がスポーツにアクセスすることを支援し、一人一人が輝けるより豊かでサステナブルな社会の実現に貢献していきます。

企業の健康経営に寄与するプログラムの提案

日常の何気ない動作や時間を簡単な運動に変えて、運動不足の解消を目指すプログラム「ながら運動100」を開発し、企業などに提案することで健康経営をサポートしています。

運動はしたいが長続きしないのは、運動する時間や場所にとらわれたり、特別なことをしなくてはいけないと身構えたりすることが原因になっていると考えられます。運動のために何かをしなくても、実は日常生活の中に多くの運動が隠れているのではないかという発想から生まれたのが「ながら運動100」です。

特別な道具は必要なく、スポーツジムに通うこともなく、運動のためだけに時間を割くことも不要です。日常生活を25のシーンに分解し、それぞれのシーンでできる「ながら運動」をWeb特設サイトやイベント、講習会などで紹介しています。

少し意識を変えるだけで、日常生活がそのまま運動になる「ながら運動」はさまざまな企業・団体とコラボレーションも行っています。

[詳細はこちらをご参照ください](#)

健康維持・増進に効果的な歩き方プログラムの提案

一人でも手軽に取り組める運動のウォーキング講習を実施しています。靴の履き方から、正しい姿勢、歩行、足指ストレッチなど、運動が苦手な高齢者でも参加できます。

■ 歩き方プログラムの開催実績

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
施設数	38	27	34	34
参加者数 (人)	2,801	2,866	2,687	2,705

「歩く」を科学した『Motion DNA（モーションディーエヌエー）』

ミズノは、「あなたの人生に、グッドパフォーマンスを。」というPOWERED LIFEのビジョンを具現化するサービスの一つとして、歩行能力・歩行タイプ分析システム『Motion DNA（モーションディーエヌエー）』を開発しました。この『Motion DNA』の活用により、人々の「歩く」をより楽にすることで、「いつまでも自分の足で行きたいところへ行ける人生」のサポートを目指します。

「歩く」ことは生活の基本です。そのため、歩行能力が落ちると、QOL（Quality of Life：生活の質）が低下します。歩行速度と健康寿命には相関関係があり、歩行速度が速い人は健康寿命が長く、歩行速度が遅い人は健康寿命が短いことがわかっています。

より長くイキイキとした生活を送るためには、歩行能力の効果的な維持対策が重要となります。『Motion DNA』は、簡単かつ高精度な専門機器によって歩行能力を測定するとともに、立位姿勢測定システムとアプリケーションにより歩行タイプを推定します。歩行能力と歩行タイプの違いを知ることで自分に合ったトレーニング方法やサポート商品が明確になり、健康寿命の延伸につなげることができます。



歩行能力測定

[詳細はこちらをご参照ください。](#)

リビングで手軽に運動することを習慣化し健康づくりをサポート

「健康のために身体を動かしたいが時間が無い」「トレーニング用品は片づけが面倒」などの声に着目し、リビングに置けるトレーニンググッズシリーズとして「ミズノヘルシーインテリア」を2018年から販売しています。“いつもの時間、空間にプラス”をコンセプトに、仕事や家事・育児などで時間がとりにくい人でも、リビングで手軽に運動することを習慣化し健康づくりをサポートします。

新型コロナウイルスの影響で在宅時間が長くなったことを背景に、外部環境に左右されず一人でも手軽にエクササイズを続けることができることから、販売は好調に推移しています。ミズノヘルシーインテリアの売上は2025年度に約9億円を目指しています。

今後の課題

スポーツを核としたビジネス領域の拡大にチャレンジします。時代の変化に合わせて、DXも活用しながら気軽に運動する習慣を身に付けるなど、ライフスタイルの分野で快適な生活をサポートするビジネスを展開し、ユーザー層の拡大を目指していきます。



重要課題

スポーツを核とした地域コミュニティの発展

基本的な考え方

情報技術の発達により、間接的なスポーツ観戦という面では、国内外問わずリアルタイムで楽しめる環境が整ってきています。しかし、実際に身体を動かし、スポーツを楽しむためには、用具や施設、またチームメイトや指導者なども必要になり、スポーツをしたくてもその機会に恵まれないという人たちもいます。

ミズノは、スポーツの持つ可能性を最大限に生かし、スポーツを楽しむ機会をより多くの人たちに提供するためには、年齢をはじめ、障がいの有無、居住地などに左右されない平等な機会の創造が重要との考えのもと、スポーツへのアクセスの向上と地域スポーツの振興支援活動を行っています。また、それらの活動を通じ、スポーツを通じた人と人とのつながりやコミュニケーションの創造にも貢献しています。

なお、ミズノグループが行うスポーツ振興活動は商業目的で実施することを前提としており、無償でのサービス実施や製品の現物支給は原則実施していません。

アムステルダムマラソンへの参画

海外でのスポーツ振興活動で代表的なものとして、オランダで開催されるアムステルダムマラソンがあります。この大会は、ミズノが2000年からサポートを続ける大会で、フルマラソン、ハーフマラソン、8kmランとさまざまなカテゴリーが設けられており、参加者それぞれが自身の能力に応じて、ランニングを楽しめるイベントとなっています。

2020年度は新型コロナウイルスの影響を考慮した「バーチャルラン」イベントとしての実施でしたが、2021年度は、2年ぶりにリアルの大会として開催されました。アムステルダムマラソンは毎年10月第3週の日曜日に開催されています。2022年度は、10月16日に開催されました。90を超える国から3万人以上のランナーがエントリーし、当社はメインスポンサーとして、会場周辺に2kmにわたるミズノのフラッグを設置しました。また、大会期間中、スタジアムに隣接した販売スタンドを設けて、アパレルやフットウェアの展示・販売を行いました。

この大会の参加者の半分近くはオランダ国外からのランナーとなり、インターナショナルで、かつパンヨーロッパの大会である点が、他のレースと大きく違う点です。さまざまなランナーの参加を通じて、地域の活性化とミズノを認知していただき、ミズノブランドのをさらなる認知および浸透を期待し、今後も大会スポンサーを継続していきます。

[本イベントの詳細はこちらをご参照ください](#)



アムステルダムマラソン2022

アムステルダムマラソン2022に設置したブース

当社グループは欧州、米国、オーストラリア、台湾、韓国、中国、その他世界中の国々で子どもから大人まで、また上級者から初心者までがスポーツを楽しめるよう、ランニング、ラグビー、バドミントンなど、さまざまな大会の協賛やスポーツクリニックの開催・協力などを行っています。

トップアスリートによる地域スポーツ振興 ～ミズノビクトリークリニックの開催

ミズノは、2007年より現役のトップアスリートや、かつて第一線で活躍したOB/OGによる実技指導を行う「ミズノビクトリークリニック」を各地で開催し、スポーツの楽しさを伝えるとともに、地域スポーツの振興に向けた活動を行っています。

クリニック講師には、五輪、世界選手権などをはじめ国内外の競技会で活躍した20競技のアスリート約300人が登録されており、プロの技術や精神を直接伝授するとともに、参加者間の交流を促進する内容となっています。トップクラスの競技者を講師として行う本プログラムは、地域におけるスポーツの振興だけでなく、アスリートに活躍の場を与え、トップスポーツと地域スポーツの融合に寄与するものとなっています。

新型コロナウイルスの影響が続いた2021年度は45回でしたが、コロナへの対応が徐々に緩和されたので、2022年度は111回の開催となりました。

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
開催数 (回)	89	24	45	111

地域におけるスポーツの振興に向けた自治体などとの協働

地域におけるスポーツは、心身の健康増進だけでなく、住民間のコミュニティづくりにも役立っています。公民学それぞれの知見を結集することで、より地域のニーズに即した効果的な活動が可能になります。ミズノは、地方自治体や地域の大学などとの連携を通じて、地域におけるスポーツ振興を推進しています。

スポーツ施設の運営

スポーツを楽しむ機会を創造するためには、地域にスポーツができる「場」があるということも重要です。ミズノは2006年から、全国のスポーツ施設の指定管理事業に参画しています。スポーツ施設の運営管理や、年齢に合わせたプログラムの提供を通じ、地域住民の交流を促進するとともに、地域の一員として、気軽にスポーツに触れ合う機会の創出を支援しています。契約施設は、2023年3月現在で全国185カ所、1,205施設となっています。

スポーツと地域のつながりを通じた社会課題解決型ビジネスの取り組み

ミズノと株式会社コンサドーレは、地域活性化を目的とした連携事業「PROJECT 179(プロジェクト イチナナキュウ)」を2021年8月に開始しました。「PROJECT 179」は、北海道の全179市町村の地域活性化を目的とした事業です。プロジェクトに賛同いただいた企業や団体が購入するミズノ製品の収益の一部を地域活性化策実現のための費用として還元します。今後はプロジェクトへの参画対象を一般生活者にも拡大する予定です。

還元施策の一例として、2022年と2023年に入学された北海道全域の小学校1年生全員に「PROJECT179」オリジナル文房具を提供しました。

当社は、スポーツと地域のつながりを通じた社会課題解決型ビジネスとして、スポーツの力を活用し、地域の活性化に貢献していきます。

今後の課題

スポーツの振興およびスポーツに関わる人の増大を目的に、「するスポーツ」だけでなく、「みるスポーツ」「ささえるスポーツ」にも応えるための「機会」・「場」・「サービス」を提供し、地域の活性化につながる「歓び、感動、夢」を創出していきます。また、子どもたちが学校の体育授業やクラブ活動に限らずどこでも気軽に楽しくスポーツを楽しむことができる機会をさらに増やしていくことで、将来のスポーツ人口の維持、増加、さらには健康で豊かな生活が送れる社会の実現に寄与できるよう取り組んでいきます。



重要課題

スポーツを軸とした多様性の推進

基本的な考え方

ミズノは、多様な人たちが世代・性別・障がいの有無などの違いを超えて、運動やスポーツと一緒に楽しめる製品・サービスの研究・開発を進めています。

多様な人たちが一緒に楽しめる運動やスポーツ製品・サービスの研究・開発

ミズノは、より多くの人たちがスポーツに参加できるよう、身体負担の少ない走り方・歩き方に関する研究や、それに適した製品開発に取り組んでいます。

また、人体負担軽減の関連商品として下記のような研究開発を実施しています。

- **歩行アシストキャリーバッグ（手首や腕の負担軽減）**

ハンドルの形がL字型になっており、前に進もうと体重をかけたときに車輪へ力が均等に伝わり、多少の段差でも真っすぐに進むことができます。上り坂ではL字の角を持って上ると、縦に持って上るよりも手首の筋肉にかかる力が約4割も軽減できます。



- **膝サポーター「グッドムービング ひざサポーター」（膝の負担軽減）**

膝のぐらつきを抑え、安定性を確保するフレックスチューブボーンを内蔵しているほか、ミズノの独自設計「ダイナモーションフィット設計」でズレにくく、理想的な装着感を実現しています。

- **カーボン製白杖「ミズノケーン ST」（快適性・安全性の向上）**

当社は、スポーツ用品開発で培ったカーボン設計・加工技術を活用し、軽量性と操作性を追求した直杖タイプの白杖「ミズノケーン ST」を2022年3月に発売しました。この白杖は、持ち手に近い手元側を堅くすることで、地面の凹凸を感じやすい設計を採用しています。また、地面と接地する先端部にはティアドロップ型の石突を採用することで、路面のひっかかりを抑制しています。一般社団法人PLAYERS^{※1}と協力し、ミズノで開発、ミズノ テクニクス株式会社^{※2}で製造しています。

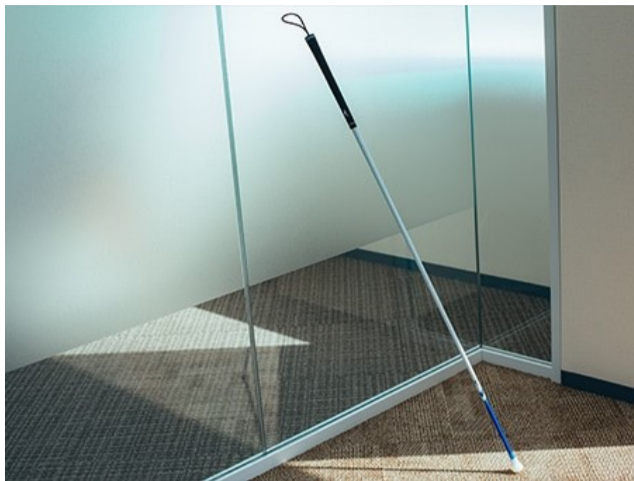
なお、白杖「ミズノケーン ST」は、2022年度グッドデザイン賞（主催：公益財団法人日本デザイン振興会）を受賞、また「2022年日経優秀製品・サービス賞」で、最優秀賞を受賞しました。

[詳しくはこちらをご参照ください](#)

[グッドデザイン賞の受賞についてはこちらをご参照ください](#)

※1 [「一緒になってワクワクし世の中の問題に立ち向かう」をスローガンとするプロトタイピングチーム](#)

※2 [スポーツ用具・カーボン製品の製造をするミズノ株式会社のグループ会社](#)



カーボン製白杖「ミズノケン ST」

障がい者スポーツ支援

ミズノは、障がい者用スポーツ用具の開発・提供や、選手・チームのサポートなどを通じて、障がい者が積極的にスポーツにアクセスできるような環境づくりにも力を入れています。

スポーツ用義足の開発

ミズノは、福祉機器メーカーである今仙技術研究所と共同で、2016年からカーボン製スポーツ用義足板バネなど陸上用義足の開発に取り組んでいます。多くのスポーツ品に使っているカーボンの設計・加工技術と、アスリートの動作解析などのスポーツテクノロジーを融合させ、今仙技術研究所の技術と組むことで、世界で戦えるスポーツ用義足を開発しました。

2020年9月には、板バネの先端中央部分に孔をあけた形状のスポーツ用義足板バネ「KATANAS」(カタナシグマ)を共同で開発しました。このカーボン製板バネは、スパイクピンがある接地部分から上部にかけて空気孔を設けることで、空気抵抗を約31%軽減しています※¹。質量は従来品に比べて約15%軽量になり、振りやすさを表す慣性モーメントも従来品に比べ約10%小さく設計できました※²。

トップ選手向けのラインナップを今後も増やしていくことで、これまで海外製品を使っていた選手への普及促進を図っていきます。



今仙技術研究所・ミズノ共同開発 スポーツ用義足板バネ「KATANAS」(カタナシグマ)

※¹ 空気孔を設けないものとの比較。ミズノ調べ、風洞実験装置による。

風速18.2m/s、義足を振り出す速度が最大となる板バネの位置関係(板バネが垂直より30°前傾した姿勢)で計測。

※² 従来品との比較。ミズノ調べ、慣性モーメント測定器による。

地面から460mm、板バネ取り付け面から前方へ80mmの位置を膝の回転軸とした設定で計測。

エントリー向けのスポーツ用義足

2021年9月には、スポーツのエントリー層に向けたカーボン製板バネ「KATANAα」を共同開発しました。競技用板バネ製作のノウハウを生かし、初めて走る人を対象にした、軽量で扱いやすい板バネです。専用のソールを装着することで、トップモデルと同様のコンセプトを持ったバネ特性を実現しています。さらに、日常用義足からの取り換えが容易で、価格も従来の競技モデルと比べて安価となっています。

日本国内における下肢切断者は約6万人^{※3}で、公益財団法人鉄道弘済会義肢装具サポートセンターのアンケートによると、当施設で義足を製作されたユーザーの約3割が「競技用の義足を試してみたい」と回答しています。

今後も、当社は今仙技術研究所と共にスポーツ用義足板バネの研究開発を続け、下肢切断者のスポーツライフを支えていくことを通じて、健康の増進と福祉の向上を推進していきます。

※3 平成18年厚生労働省「身体障害児・者実態調査」より



今仙技術研究所・ミズノ共同開発 「KATANAα」(カタナアルファ) 子ども用(左)と大人用(右)

今後の課題

ミズノグループは、海外12の国と地域に事業拠点を有し、ミズノブランドをグローバルに展開していますが、それぞれの地域に根差したスポーツ振興の活動も推進してきました。今後も、スポーツの力を通じて平和な社会の実現に貢献できるよう、また、世界中の人々、世界中の子どもたちを笑顔にできるよう、取り組みをさらに広めていきます。

また、当社グループは競技スポーツ分野で培った技術や素材も応用し、誰もが楽しく体を動かせる社会、スポーツの力で社会課題の解決に貢献できる世界の実現を目指していきます。



重要課題

運動機能の維持による健康寿命の延伸

基本的な考え方

高齢化が進む現代では、スポーツを通じた健康寿命（健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間）の延伸が期待されています。一人一人の生活の質を保ち豊かな生活を送るため、また、医療費等の社会的負担を軽減するためにも、スポーツを通じたシニア世代の運動機能維持に努め、健康寿命の延伸に貢献していきます。

ミズノ高齢者健康運動プログラム

「ミズノ高齢者健康運動プログラム」とは、「できる」「楽しむ」「つづく」の三つのコンセプトをもとにミズノが独自に開発した高齢者健康運動プログラムです。

LaLaLa Fit

「LaLaLa Fit」は、自分の体重を利用して筋肉や関節など日常生活で体を動かす部位を鍛える運動プログラムです。ミズノの機能性ツールを使うことでバランス感覚を鍛え、さらに普段使っていない筋肉の活性化を目指します。

LaLaLa Circuit

「LaLaLa Circuit」は、トレーナーのフォローのもと、バランス、筋力、脳力の三つの要素について、個人のレベルに応じて、自分のペースで脳と体を鍛えることができます。しっかりと運動をされたい方にお勧めの運動プログラムです。油圧マシンを使った筋力トレーニングと、有酸素運動であるリズム体操を同時に行うデュアルタスク運動で、体と脳の両方を活性化させます。

LaLaLa Circuit Lite

「LaLaLa Circuit Lite」は、自分の体重を利用した筋力トレーニングと、有酸素運動であるリズム体操を同時に行うデュアルタスク運動で脳の活性化も目指します。運動を楽しく気軽に行いたい方向けの運動プログラムです。

健康寿命の延伸に向けた地域との協働

ミズノは、日本各地の自治体で行われている介護予防事業や、特定保健指導該当者向け事業などに積極的に取り組み、運動施設に行くにはハードルが高いと考えているユーザーに対して、運動のきっかけづくりを行っています。教室ではグループワークなどの手法を取り入れ、参加者同士のコミュニティづくりや、運営する指定管理施設での運動継続などを促しています。

2022年度は介護予防事業を全国で25事業開催し、介護予防教室に参加するだけでなく、教室終了後に参加者自身でも取り組める運動方法や運動メニューの習得ができるように事業展開を心掛けています。

ミズノアクティブリーダーの普及

ミズノは、シニアの運動指導に関わる全ての人を対象に、運動する上での身体に関する基礎知識の習得と運動プログラムを指導・実践するミズノアクティブリーダーを育成するための研修を行っています。これは、ミズノオリジナルのライセンスで、研修を通じて実際に運動を行う際の注意点を学び、シニアに必要な筋力トレーニング、ストレッチ指導ができる技術を習得することができます。

NPOや体育協会・企業などの方々がアクティブリーダーを取得し、施設や地域で指導者として運動指導を行い、活躍の場を広げています。

健康寿命の延伸に関するプログラムの実績

項目	内容	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
ウォーキング講習会	一人でも手軽に取り組める運動であるウォーキングの講習です。正しい姿勢、歩行、リハビリ体操、足指ストレッチなど、運動が苦手な高齢者でも参加できます。	施設数	38	27	34	37
		参加者(人)	2,801	2,866	2,984	2,620
LaLaLa Fit	上記LaLaLa Fitをご参照ください。	施設数	23	28	33	38
		参加者(人)	17,684	10,389	14,674	16,437
LaLaLa Circuit	上記LaLaLa Circuitをご参照ください。	施設数	2	2	2	5
		参加者(人)	6,028	1,876	4,672	8,513
姿勢シャキーン	姿勢改善プログラムです。体幹のトレーニングを主とし、ミズノオリジナルの運動ツールを使っています。	施設数	1,020	1,184	2,218	3,605



ウォーキング講習会



LaLaLa Circuit

行政と共に介護予防リーダーを育成

ミズノは、行政との協働により、市民を対象にした介護予防リーダーの養成を行っています。ミズノアクティブリーダーの要素を取り入れ、研修の実施や、中核施設におけるOJTのほか、育成したリーダーがそれぞれの地域で活躍できるまでの支援も行っています。

羽曳野市との協働事業では、地域の健康づくりサポーターを市内4カ所で106名を育成し、住民主体で行う健康づくりに貢献しています。2022年度は市内4カ所の通いの場で、住民主体により全全2,318教室を展開し、総勢21,082名の教室参加者がありました。

今後の課題

加齢による筋力の衰えなどにより体の機能が低下してきたシニアの方向けに、アスリートの動作解析技術を応用した衣服や用具などの製品開発を進めています。

さらに、運動が苦手な方や自宅から外出しにくい環境にある方でも、気軽に自宅で実施できるトレーニングプログラムの開発や、ツールを使う楽しさから運動へと発展させる運動プログラムなどの提供を実施していきます。

また、ミズノアクティブリーダーの普及を促進し、誰もが運動を通じたコミュニティをつくり、お住まいの地域で毎日をより活動的に楽しめるカラダづくり・健康づくりをサポートしていきたいと考えています。



重要課題

子どもの体力・運動能力の向上

基本的な考え方

情報化社会の進展などにより、子どもの体力・運動能力は世界的に低下傾向が続いています。子どもの体力低下は、将来世代の健康状態に影響を及ぼすだけでなく、医療費の増加につながるなど、社会全体の活力に影響を及ぼすことが予想され、教育機関や家庭を含む社会全体での取り組みが望まれています。

日本では、子どもの体力・運動能力低下の背景として、1) 手軽かつ安全に遊べる外遊びの場の減少、2) 幼少期に身につけておくべき基本的な動きが発達していない、3) スポーツへの苦手意識、などが要因と考えられています。ミズノは、子どもの体力・運動能力の向上を目的とした独自の運動プログラムを開発し、展開を進めています。

ミズノ独自の運動プログラムの開発：ヘキサスロン

ミズノは、運動が苦手な子どもでも楽しくスポーツの基本的な動作を習得できる運動遊びメニューと、運動能力測定を組み合わせたプログラム「ヘキサスロン」を開発し、日本全国各地の自治体と協働して小学校をはじめとした各種施設に提供しています。「ヘキサスロン」は、安全性と機能性を考慮したミズノオリジナルの用具を用い、各自の運動能力に合わせて「走る」「跳ぶ」「投げる」の基本動作を習得できるよう構成されています。場所、プログラム、サービスをセットで提供することにより、楽しく、かつ着実に子どもたちの体力・運動能力の向上につなげることが可能となっています。

ミズノ独自の運動プログラムの開発：その他

子どもの体力・運動能力の向上のためには、幼少期から身体を動かすことに慣れ親しみ、スポーツへの苦手意識を克服することが重要です。

ミズノは、スポーツに関する知識・経験が豊かなミズノスタッフが講師となり、「ミズノ・スポーツ塾」や「運動会必勝塾」などのプログラムを各地で開催しています。幼少期に身につけておくべき基本的な動きを短期集中で克服し、運動の楽しさを味わってもらうことで、運動が好きな子どもを増やすことを目指しています。

運動の苦手な子どもたちへ「苦手克服教室シリーズ」として、跳び箱、マット、鉄棒に加えて、ミズノ苦手克服縄跳び教室も2022年度からスタートしました。

縄跳びを「うまく跳ぶこと」が目的ではなく、「跳ぶことが好きになる」をテーマにした運動遊び中心の取り組みです。

また、3～5歳の子どもを親子を対象に、その年代で覚えてほしい動きを取り入れた運動遊びプログラム「PLAY! CIRCUS」を展開しています。

「PLAY! CIRCUS」は、サーカスの世界観で、サーカスの団員となり、団長やピエロと一緒に楽しむ60分のプログラムです。

子どもの体力・運動能力の向上に関するプログラムの実績

項目	内容	項目	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
ヘキサスロン	スポーツの基本的な動作を楽しく習得できるメニューと運動能力測定を組み合わせたプログラム（※数字は国内のみ）	導入数（校）	8	9	7	8
		開催数（回）	150	17	13	13
		参加者（人）	5,656	1,446	631	661
ミズノ流忍者学校（2021年度からは「めざせ！しのびポケモンゲッコウガ！」プログラムも実施しています）	幼少期の成長に必要な「走る」「跳ぶ」「投げる」などの36の基本動作を盛り込み、忍者の修行に見立てたストーリー型遊び運動プログラム	開催数（回）	144	63	24	54
		参加者（人）	4,289	789（延べ）	487（延べ）	865（延べ）
ミズノ・スポーツ塾	マット運動・鉄棒・跳び箱などを取り入れた、運動が苦手な子どもたちのためのプログラム	開催数（回）	985	182	60	45
		参加者（人）	8,093	1,760	1,018	455
運動会必勝塾	運動会のリレーやかけっこで1等賞をとるためのレッスン体験型プログラム	開催数（回）	26	7	8	5
		参加者（人）	380	98	259	215
苦手克服教室 縄跳び	縄跳びの苦手な子どもたちへ、1回でも跳べるように、また縄跳びをが好きになってもらうプログラム	開催数（回）				62
		参加者（人）				879

いずれの運動プログラムも、2020年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、開催数を制限して実施しています。



ヘキサスロン



ミズノ流忍者学校



ミズノ・スポーツ塾



運動会必勝塾



PLAY! CIRCUS



ベトナムでの「ミズノヘキサスロン運動プログラム」導入普及促進事業

ミズノは、2015年からベトナムで「ミズノヘキサスロン運動プログラム」普及促進事業に取り組んできました。ベトナムの義務教育期間における体育の授業時間は、先進国に比べ非常に少なく、運動プログラムも画一的で、「走る」「跳ぶ」「投げる」などのスポーツの基本動作の要素が十分に考慮されていないことが課題でした。

当社は、2018年9月にベトナム教育訓練省との間で、新学習指導要領における「ミズノヘキサスロン」導入に向けた協力合意を取り交わし、同国小学校1,000校に対して、スポーツ用具の提供を行いました。

また、同年10月には「ミズノヘキサスロン」導入と定着に関する協力覚書を正式に締結。これにより、新学習指導要領への「ミズノヘキサスロン」導入と定着化に向けたモデルケースを各地で作り出すことが可能となり、同年12月以降、ベトナム全63省を対象とした導入普及促進活動を実施しました。

小学校の教師を対象とした、指導員養成のためのワークショップには、現在までに約1,700人の教師が参加し、それぞれが担当する小学校で指導に当たることで、多くの小学生が「ミズノヘキサスロン」を活用した体育授業を受けています。

2020年3月以降は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、大人数を一堂に集めるワークショップ活動は見合わせていますが、コロナ以前にワークショップ活動に参加した現地の教師の方々から、それぞれが地元の小学校でミズノヘキサスロンを体育授業に取り入れているといった報告が届いています。

2021年10月には、ベトナム教育訓練省から発出された「国家指定備品リスト」にミズノヘキサスロン用具が掲載され、パブリックコメントとして公示されました。2022年6月には、本事業に対して、ベトナム国家主席府から特別感謝状をを授与されました。（授与式は、6月27日にミズノ大阪本社で実施）。当社は、今後も、ベトナムの子どもたちに「運動をすることの楽しさと体を動かすことの喜び」を広げるとともに、スポーツの力を活用して社会課題を解決する「スポーツSDGs」の達成を目指し、本事業を推進していきます。



ベトナム国家主席府より特別感謝状を受章

[ベトナム国家主席府からの特別感謝状授与についてはこちらをご参照ください。](#)

ミズノオリジナルライセンス「ミズノプレイリーダー」の普及

ミズノは、子どもたちがいきいきと遊べるような環境をつくり、子ども同士の主体的な遊びを見守る「ミズノプレイリーダー」の育成に取り組んでいます。子どもに接する機会が多い企業、大学、行政、教育関係者に、プレイリーダーとしての基礎知識と実技を身につけていただき、運動遊びの基本的な内容を研修する活動を実施しています。この研修活動を社内外に普及させており、現時点で全国各地に約700人のミズノプレイリーダーの輪が広がっています。子どもたちと全力で向き合い、子どもたちの信頼を得て、いざという時は全力で守ります。



ミズノプレイリーダー

	社内（人）	社外（人）	総数（人）
1級	3	0	4
2級	31	5	36
3級	346	774	1,120
合計	381	779	1,160

今後の課題

現代の子どもたちには、遊ぶ「空間」「仲間」「時間」の三つの「間」がないといわれています。また、保護者からは「子どもとの遊び方が分からない」という声も耳にします。

ミズノは、子どもがいきいきと遊べるような環境づくりと、それを見守る「ミズノプレイリーダー」の育成を行っています。

プレイリーダーは、おもしろく夢中になれる遊びや運動を提供することで、子どもたちが主体となって子ども同士で遊べるような環境を作っています。このプレイリーダーを広く社内外で普及させ、運動遊びを通じて子どもたちの健全な心と体づくりを支援していきます。

また、今後はプレイリーダーが活躍する「場」も創出していきたいと考えています。そのためには、プレイリーダーが普及する上で今後想定される課題の抽出と、保護者への啓発活動を同時に行い、プレイリーダーの認知をさらに拡大させていく必要があります。プレイリーダーが世の中に広く認知されるよう、運動遊びプログラムやイベントを通じて、より一層の浸透を図っていきます。



重要課題

ミズノの技術を応用したSDGs貢献

基本的な考え方

ミズノは、競技スポーツ品だけでなく、生活用品やワークビジネスなど多様なシーンに目を向けて事業を展開しています。スポーツ分野での強みを生かし、心身の健康増進や、地域の多様なコミュニケーション促進を含めて、社会課題の解決や地域社会の健全な発展に貢献していきます。

また、競技スポーツ分野で培った機能や素材を生み出す開発力と、高い品質のモノづくりを実現する技術力などの強みを生かし、多様なイノベーション創出に挑戦しています。今後も、SDGsを含め、社会課題の解決を起点にしたサステナビリティへの貢献を目指していきます。

カーボン技術を応用した研究・開発

ミズノは、これまで人の動きや形状に合わせた「人が中心」の研究開発を進めてきました。この研究に対する軸はこれからも変わらず、SDGsに貢献できる製品やサービスなど新たな価値の創出に向けて研究・開発を行っていきます。モノづくりの企業として“ええもん”を作るだけでなく、全ての研究テーマをSDGsに紐づけ、中長期目標のカーボンニュートラルへの貢献、ひいてはサステナブルな社会の実現に向けて取り組んでいきます。

当社は、カーボン技術を応用した研究・開発として、リサイクルカーボン技術を利用した製品開発の拡大や、熱可塑性CFRPの研究・開発、ナノフィラーによるCFRP強化の研究などに注力しています。

- リサイクルカーボン技術を利用した製品開発
例えば、足部の疲労を軽減する製品としてシューズのインソール（中敷き）があります。ウォーキング愛好家をはじめ、労働者や高齢者の足元を支えるインソールのバネ材へのリサイクルカーボンの適用を進めたいと考えています。
- 熱可塑性CFRPの研究・開発
カーボン製義足板バネなどに使われている従来の熱硬化性CFRPと用途は変わりませんが、成形時間が短く、再利用が容易です。サステナブルな社会に貢献できるCFRP製品の実用化を目指しています。
- ナノフィラーによるCFRP強化の研究
ナノレベルの材料を添加することで、材料自体の性能が向上し、高機能なスポーツ用品の開発が可能になると考えています。

新スポーツ・サービスの研究・開発

世代・性別・障がいの有無などの違いを超えて一緒に楽しめる新スポーツ・サービスの研究・開発に取り組んでいます。

ミズノは、直営施設、指定管理施設などお客さまが利用される場の運営をしていることから、サービスの研究・開発においてお客さまにアプローチしやすい環境があります。また、これまでのスポーツ用具・用品の研究開発から人を対象とした研究実績を活用し、サービスの研究・開発も行っています。

スポーツ用品の機能的価値を活用したワークビジネスの展開

ミズノは、ワークビジネス事業を戦略ドメインの一つとして位置付け、さまざまな業種のワーカー向けに、スポーツ用品の機能的価値を活用した企業ユニフォームやシューズなどを展開しています。近年、企業活動において、従業員などの健康管理を経営的な視点で捉え、戦略的に実施する「健康経営」が注目されており、福利厚生観点から従業員のユニフォームなどの支給品の安全性や快適性を重視する企業が増えています。

当社では、暑さ対策品の「エアリージャケット（ファン付き作業服）」、寒さ対策品の「テックシールドジャケット」など、過酷な労働環境に合わせた提案にも取り組んでいます。また、ペットボトルのリサイクル系を使用した企業ユニフォームやケミカルリサイクル系を使用したワークアパレルなどの環境配慮型商品の開発を進めることで、労働生産性向上を目指し、持続可能な開発目標（SDGs）の実現に貢献しています。

ワークビジネス事業の経緯

ミズノは、1997年からスポーツ用品開発で培った技術や知見を活用した、別注の企業ユニフォームを企画・販売する専門部門を設置し、これまで7001,200社以上に納品しています。近年、企業などからの需要を受け、2016年3月からワークシューズを、2018年2月からワークアパレルを本格的に展開。2019年4月にはワークビジネス事業部を新たに設立し、ワークビジネス強化に取り組んでいます。

さらに2019年4月には、BtoB（Business to Business）強化を目的に、法人営業部をそれまでの約20人体制から約90人体制に増員し、北海道から九州までの全支社に法人営業部員を設置して企業への営業活動を強化しています。

2025年度には、売上170億円を目指しています。

ミズノワークアパレルの特長

ワークアパレルには、屋内外における寒暖などの環境変化に合わせて、働く人がより動きやすく、より快適に作業・労働するための機能が求められます。ミズノワークアパレルは、動きやすさを追求した独自のウエア設計「ダイナモーションフィット」や汗処理に優れた素材「ドライエアロフロー」、体から出る水分を吸収して発熱する吸湿発熱素材「ブレスサーモ」などを採用し、働く環境で求められる機能を搭載しています。

- 動きやすさを追求したウエア設計「ダイナモーションフィット」
「ダイナモーションフィット」は、人間工学に基づく動作解析により、作業時の動きやすさを追求しています。引きつれや圧迫感を軽減し体の自由な動きをサポートします。
- 汗による不快感を軽減する汗処理素材「ドライエアロフロー」
「ドライエアロフロー」は、汗の膜が生地の通気性を低下させ、不快感の原因を生むことに着目して開発した素材です。大量発汗時でも高い通気性を確保し、衣服内のべたつきの抑制機能とクーリング機能を発揮。梅雨時期や真夏の炎天下での快適な作業をサポートします。

身体動作に関する技術・ノウハウを医療・介護の現場に活用

ミズノは、100年以上にわたって人間の身体動作を探求し、スポーツ用品を通じて無数のアスリートを支えてきました。スポーツの現場に寄り添い、アスリートと共に築き上げてきた当社の技術とノウハウは、過酷な環境で患者さんを支える医療や介護の現場にも貢献しています。

医療・介護関連の事業として、当社はメディカルシューズとアパレルを展開しています。不衛生たんぱく質を分解する「ハイドロ銀チタン」素材や、「ダイナモーションフィット」設計を搭載したスクラブ・パンツを発売し、事業拡大を目指していきます。

アスリートを盗撮被害から守る赤外線防透け生地を開発

ミズノでは、アスリートの盗撮被害抑制につながる「赤外線防透け」の特長を備えた生地を開発しました。近年、競技会場などにおいて性的な目的で女性アスリートの画像や動画が撮影され、それがインターネットで拡散される被害が各種メディアなどで取り上げられていることが問題になっています。そこで、アスリートに対する盗撮の問題解決をテーマとして新規技術開発に取り組み、「赤外線防透け生地」の開発に至りました。この「赤外線防透け生地」は、機能性材料に精通している住友金属鉱山株式会社、複合材料技術に精通している共同印刷株式会社、スポーツを中心とした生地開発・製品設計に精通しているミズノの三社による「共創」で誕生しました。

アスリートを守り、競技に集中できる環境を提供することは、「心・技・体」の「心」をサポートすることにつながるほか、選手ファーストの観点においても大切な取り組みであると考えています。

子どもの運動習慣向上を目指す運動遊びプログラムの研究

運動遊びだけでなく、スポーツやエクササイズを長続きさせるには、楽しいという気持ちが必要です。特に幼少児期の体験は大人になっても残るといわれており、運動遊びの効果として体力、運動能力の研究だけでなく、運動遊びプログラムと子どもの心の関係を研究しています。運動が苦手な子ども、運動が嫌いな子どもが抵抗感なく参加できる運動遊びプログラムづくりを目指しています。

子どもたちの発達を促す運動遊びプログラムの提供

スポーツにおける正確な動作や、日常生活における細かな動作が苦手な子ども、物をよく落とす、ハサミや刃物がうまく扱えないなど生活の中で支障を感じている子どもたちを対象とした運動遊びプログラムを提供しています。このプログラムを通じて、身体の動かし方や巧緻性を改善することで子どもたちの発達を促していきます。

高齢者の認知能力向上（低下防止）を目指す運動プログラムの研究

健康に関して高齢者が感じている不安は、転倒によって寝たきりになることと、認知能力低下によって日常生活に支障が出ることの二点があげられます。高齢者の長期寝たきり、入院は医療費や介護費の負担増を招きます。ミズノは、健康寿命を延ばすためには、楽しく運動を続けることが重要だと考えています。リズムに合わせて身体を動かしたり、手と足の協調運動を行ったりすることで認知能力の低下予防につながるのとのお考えのもと、高齢者を対象とした運動プログラムの研究を行っています。

遊びの要素を取り入れた新たなスポーツの研究・開発

各種協会や大学との協働により新たなスポーツの研究・開発に取り組んでいます。例えば「500歩サッカー」は、歩数を制限するルールとデジタルデバイスの活用によって、運動が苦手な方たちや運動能力に差を感じている方たちも、楽しく体を動かしたり、ゴールを決めたりする体験を味わうことができます。

ミズノは、スポーツ科学とデジタル技術をかけ合わせた研究・開発の推進と、スポーツ施設などの場でスタッフによる実践・運営ができるという強みを生かし、新たなスポーツの研究・開発に引き続き取り組んでいきます。

今後の課題

ミズノは、製品やサービスを生み出すための指針となる「MIZUNO MIRAI VISION（ミズノミライビジョン）」を策定し、Webサイトで公開しています。私たちは、スポーツの定義を「楽しく体を動かすこと」とし、「スポーツで人を幸せにする」という使命に向かい、「みんなが楽しく体を動かす社会。スポーツの力で社会課題を解決する世界。」の実現を目指します。

そのための場として、イノベーションセンター「MIZUNO ENGINE（ミズノエンジン）」を設立し、2022年11月から本格稼働を開始しました。私たちは、「競技」、「健康」、「環境」、「教育」、「ワーク」の5つの領域において、スポーツにできることを追求し、スポーツの力による変革を目指します。

人がさらなる高みへ向かうための「集中力」や「モチベーション」の向上には、未だ解明されていないことが多い心の領域のメカニズム解明への挑戦が必要と考えています。私たちが長年大切にし、磨いてきた「人を中心にメカニズムを理解し、目的に合わせて製品・サービスをデザインする」という中核技術をさらに進化させるとともに、社外のパートナー企業との共創も加速させ、心の領域のメカニズム解明につながる研究も加速させていきます。

[MIZUNO MIRAI VISIONについてはこちらをご参照ください](#)



イノベーションセンター「MIZUNO ENGINE
（ミズノエンジン）」